

## 平成 24 年の食中毒発生状況

平成 24 年に全国および東京都内で発生した食中毒事例の概要と特徴について、厚生労働省医薬食品局食品安全部並びに東京都福祉保健局健康安全部の資料に基づいて紹介する。

## 1. 全国における発生状況

食中毒事例総数は1,100件、患者数は26,699名(死亡者11名)であり、事例数は前年比1.03でほぼ同じであるが、患者数は前年比1.23で約5,000人増加した。

事例数を原因物質別に見ると、細菌性食中毒は419件(38.1%)、前年(543件)比0.77で大きく減少した。一方、ウイルス性食中毒は432件で、前年(302件)比1.43と大きく増加した。

細菌性食中毒の原因菌別の第1位はカンピロバクター266件(24.2%)で、以下、黄色ブドウ球菌44件(4.0%)、サルモネラ40件(3.6%)、ウエルシュ菌26件(2.4%)、腸管出血性大腸菌16件(1.5%)、腸炎ビブリオ9件(0.8%)、腸管出血性大腸菌以外の大腸菌5件(0.5%)、エルシニア3件(0.3%)、セレウス菌2件(0.2%)、そしてナグビブリオ、ボツリヌス菌がそれぞれ1件(0.1%)、その他の細菌が6件(0.5%)であった。

細菌性食中毒の患者数は5,964名(22.3%)、前年比0.54で大きく減少した。これは、サルモネラ、大腸菌、ウエルシュ菌、カンピロバクターなどによる食中毒患者数が大きく減少したためである。患者数の多い原因菌は、カンピロバクター(1,834名)、ウエルシュ菌(1,597名)であった。サルモネラによる患者数は670名で、1,000名を下回ったのは平成8年以降では初めてのことである。1事例あたり患者数500名以上の大規模な細菌性食中毒はなかった。ボツリヌス菌による1事例は「あずきぱっとう」を原因食品とするA型ボツリヌス菌の事例であった。「あずきぱっとう」はぜんざいの餅の代わりに平打ちのうどんが入った食品であり、食品および患者検便からA型ボツリヌス菌が検出された。またエル

シニアによる食中毒が8年ぶりに発生した。3事例はいずれもエルシニア・エンテロコリチカO8を原因菌とし、原因食品は飲料水(簡易水道)が1事例、旅館の食事が2事例であった。

食中毒による死者11名の内8名は、8月に北海道で高齢者施設等において発生した患者数169名の腸管出血性大腸菌O157の事例によるものである。有症者の検便および施設に保存されていた白菜の浅漬から腸管出血性大腸菌O157が検出され、これらの遺伝子型が一致し、原因食品が特定された。この事件を契機に「漬物の衛生規範」の改正(平成24年10月12日食安監発1012第1号)が行われた。主な改正内容として温度管理および洗浄、殺菌を徹底することなどが追加された。

一方、ノロウイルスによる食中毒は事例数416件(37.8%)、患者数17,632名(66.0%)で事例数、患者数共に大きく増加した。特に患者数は約9,000人増加したが、この中には、大規模食中毒2件(患者数1,442名および2,035名、いずれも原因施設は仕出屋)が含まれる。化学物質による食中毒は15件、植物性自然毒は70件、動物性自然毒は27件であった。死者3名のうち2名は植物性自然毒(トリカブト)、1名は動物性自然毒(アオブダイ)であった。

## 2. 東京都における発生状況

都内の食中毒発生状況は、事例数142件(患者数2,103名)であり、平成23年の事件数133件(患者数1,515名)と比べ、事例数で1.07倍、患者数で1.39倍と共にやや増加した。これは全国の発生状況と同様にノロウイルス事例の増加が主な原因であった。

食中毒142件中、細菌性によるものは59件(41.5%)であった。原因菌では8年連続でカンピロバクターが1位で42件(29.6%)、次いで、サルモネラ3件(2.1%)、黄色ブドウ球菌2件(1.4%)、腸炎ビブリオ2件(1.4%)腸管出血性大腸菌1件

(0.7%)、ウエルシュ菌 1 件(0.7%)であった。患者数 100 名以上の大規模事例はなかった。

カンピロバクター食中毒は、生あるいは加熱不十分の鶏肉および牛の生レバーを喫食することで発生することが多い。平成 24 年はカンピロバクターによる食中毒が細菌性食中毒の 8 割以上を占めたが、食中毒が増加した一因として 7 月 1 日から施行された生食用牛レバーの販売・提供の禁止(罰則付きの規制)に伴う駆け込み需要の増加が挙げられる。規制直前の一週間に発生したカンピロバクター食中毒は 8 事例あり、そのうち 6 事例が牛レバー刺しを喫食していた。

ノロウイルスによる食中毒は、事例数 59 件(41.5%)、患者数 1,545 名(73.5%)であった。前年比はそれぞれ 1.18 および 1.91 で、患者数は 700 名以上増加し、食中毒全体の 7 割を超えていた。患者数が 100 名以上の事例は 1 件(患者 263 名、仕出弁当を原因)であった。また、患者数 30 名を超えた事例が 13 件発生するなど、比較的規模の大きな事例が多かった。生カキを原因とする事例は 10 件で、調理従事者の手指などを介した二次汚染が原因とされた事例は 41 件(ノロウイルス食中毒

の 69.5%)であった。

化学物質による食中毒 5 件のうち 3 件はヒスタミンによるもの、2 件は洗剤の誤飲であった。植物性自然毒は 1 件のみでジャガイモのソラニンによるものであった。

アニサキスによる事例は以前は年間 1~2 件であったが、平成 22 年に 6 件、平成 23 年に 10 件と近年著しく増加しており、平成 24 年には事件数 22 件(患者数 24 名)にのぼった。シメサバなどの生鮮魚介類が主な原因である。また、ヒラメの生食を原因とするクドア・セプテンpunkタータによる事例も 2 件発生した。

原因物質不明の事例は 2 件で、その内の 1 件ではヒラメの生食が原因と推定されたが原因物質の特定には至らなかった。他の 1 件では複数の患者検便から耐熱性毒素様毒素遺伝子(*astA*)保有大腸菌が検出された。本菌は、下痢症との関連が強く疑われているが(IASR Vol.33 No1 2012 年、国立感染症研究所)、学問的にも十分解明されておらず、原因物質不明となった。このような病因物質の究明にむけた研究が今後の課題である。

(食品微生物研究科 食中毒研究室)

#### 平成24年の食中毒発生状況

原因物質	全国			東京都		
	事件数(%)	患者数(%)	死者数	事件数(%)	患者数(%)	死者数
サルモネラ	40 ( 3.6)	670 ( 2.5)	—	3 ( 2.1)	15 ( 0.7)	—
黄色ブドウ球菌	44 ( 4.0)	854 ( 3.2)	—	2 ( 1.4)	52 ( 2.5)	—
腸炎ビブリオ	9 ( 0.8)	124 ( 0.5)	—	2 ( 1.4)	45 ( 2.1)	—
腸管出血性大腸菌	16 ( 1.5)	392 ( 1.5)	8	1 ( 0.7)	5 ( 0.2)	—
その他の病原大腸菌	5 ( 0.5)	219 ( 0.8)	—	—	—	—
ウエルシュ菌	26 ( 2.4)	1,597 ( 6.0)	—	1 ( 0.7)	14 ( 0.7)	—
セレウス菌	2 ( 0.2)	4 ( 0 )	—	—	—	—
カンピロバクター	266 ( 24.2)	1,834 ( 6.9)	—	42 ( 29.6)	265 ( 12.6)	—
エルシニア	3 ( 0.3)	135 ( 0.5)	—	—	—	—
ナグビブリオ	1 ( 0.1)	1 ( 0 )	—	—	—	—
ボツリヌス菌	1 ( 0.1)	2 ( 0 )	—	—	—	—
その他の細菌	6 ( 0.5)	132 ( 0.5)	—	—	—	—
細菌性総数	419 ( 38.1)	5,964 ( 22.3)	8	51 ( 35.9)	396 ( 18.8)	—
ノロウイルス	416 ( 37.8)	17,632 ( 66.0)	—	59 ( 41.5)	1545 ( 73.5)	—
その他のウイルス	16 ( 1.5)	1,005 ( 3.8)	—	—	—	—
化学物質	15 ( 1.4)	136 ( 0.5)	—	5 ( 3.5)	31 ( 1.5)	—
植物性自然毒	70 ( 6.4)	218 ( 0.8)	2	1 ( 0.7)	3 ( 0.1)	—
動物性自然毒	27 ( 2.5)	49 ( 0.2)	1	—	—	—
アニサキス <sup>1)</sup>	・	・	・	22 ( 15.5)	24 ( 1.1)	—
クドア・セプテンpunkタータ <sup>1)</sup>	・	・	・	2 ( 1.4)	7 ( 0.3)	—
その他	107 ( 9.7)	491 ( 1.8)	—	—	—	—
原因物質不明	30 ( 2.7)	1,204 ( 4.5)	—	2 ( 1.4)	97 ( 4.6)	—
合計	1,100 (100.0)	26,699 (100.0)	11	142 (100.0)	2,103 (100.0)	—

1)アニサキス及びクドア・セプテンpunkタータはその他または原因物質不明に含まれる(全国)

表1 検査機関別検査件数及び病原菌検出状況

2013年 4月分

検査機関名	検査件数	病原菌検出状況													
		コレラ菌		赤痢菌					チフス菌	パラチフスA菌	その他のサルモネラ	腸管出血性大腸菌	その他*	合計	
		O1, O139	O1, O139以外	A	B	C	D	計							
千代田区千代田保健所	339														
中央区保健所	1029														
港区みなと保健所	139														
新宿区保健所	0														
文京区保健所保健サービスセンター 本郷支所	24														
台東区台東保健所	75													11	11
墨田区保健所	1559													6	6
江東区深川南部保健相談所	279														
品川区保健所検査室	166														
目黒区碑文谷保健センター	1865														
大田区保健所	2														
世田谷区世田谷保健所	113											1			1
渋谷区保健所															
中野区保健所	7												4		4
杉並区衛生試験所	1254														
豊島区池袋保健所															
北区保健所	1945											1			1
荒川区保健所	247														
板橋区保健所	4														
練馬区衛生試験所	4736											1		3	4
足立区衛生試験所	823														
葛飾区保健所	0														
江戸川区保健所	3900													5	5
小 計	18506											3	4	25	32
島しょ保健所大島出張所	70														
島しょ保健所三宅出張所	95														
島しょ保健所八丈出張所	117														
島しょ保健所小笠原出張所	59														
小 計	341														
健康安全研究センター	866 (15)				2			2			1 (1)	1	4	33	41 (1)
小 計	866 (15)				2			2			1 (1)	1	4	33	41 (1)
合 計	19713 (15)				2			2			1 (1)	4	8	58	73 (1)

( ) : 海外旅行者分再掲

\* : 表2参照

表2 病原菌検出状況(全国及び東京都)

菌 種 名	全国 (2013年3月分)		東京都 (2013年4月分)			
	地研・保健所		健康安全 研究センター	島しょ・区 検査機関	民間登録 衛生検査所	
大腸菌	20	(2)	10	4	1152	
毒素原性	1	(2)	5			
組織侵入性			1			
病原血清型	1					
腸管出血性	11		4	4	2	
その他・不明	7				1150	
赤痢菌	4		2			
A群						
B群	3		2			
C群						
D群	1					
その他・不明						
チフス菌		(2)				
パラチフスA菌		(1)	1	(1)	1	
その他のサルモネラ	26	(5)	1	3	35	
O4	13	(1)		1	17	
O7	8	(2)		1	8	
O8	2				3	
O9	3	(2)	1		5	
その他				1	1	
不明					1	
エルシニア・エンテロコリチカ	1		20		8	
エルシニア・シュドツベルクローシス						
コレラ菌(O1)						
コレラ菌(O139)						
コレラ菌(O1, O139以外)					1	
腸炎ビブリオ					4	
その他のビブリオ					1	
エロモナス					91	
プレジオモナス・シグロイデス					4	
カンピロバクター	37		7		256	
黄色ブドウ球菌	18			17	2405	
A型ウエルシュ菌	2				48	
ボツリヌス菌						
リステリア・モノサイトゲネス						
セレウス菌	2				2	
淋菌					104	
クラミジア・トラコマチス						
髄膜炎菌					4	
レンサ球菌(A群)	32				602	
レンサ球菌(B群)					4023	
レンサ球菌(CまたはG群)						
レンサ球菌(その他)	1				941	
肺炎球菌	4				1701	
ジフテリア菌						
百日咳菌	3				1	
インフルエンザ菌	6					
レジオネラ					3	
肺炎桿菌						
結核菌	6					
非結核性抗酸菌						
マイコプラズマ	2					
レプトスピラ						
赤痢アメーバ					3	
マラリア						
その他				8	13899	
合計	164	(10)	41	(1)	32	25289

( ) : 海外旅行者分のうち、全国は別掲、東京都は再掲

全国の数字は「病原微生物検出情報」(国立感染症研究所)より引用

民間登録衛生検査所の集計値は、ビー・エム・エル、三菱化学メディエンス株式会社の協力による

表3 性感染症検査成績

2013年4月分

東京都健康安全研究センター

区分	梅毒検査		クラミジア検査				淋菌遺伝子検査	
			抗体検査		遺伝子検査			
	検査数	陽性	検査数	陽性	検査数	陽性	検査数	陽性
保健所*	192	3	103	25	88	1	61	1
累計(2013年1月～)	897	8	678	178	220	5	256	4

保健所\* : 当センターで検査した区または都保健所検体の合計

梅毒検査\*\* : TPLA法とRPR法にてスクリーニングを行い、TPHA法・TPLA法中和試験にて特異性を確認した。

区及び島しょ保健所

	梅毒血清反応			クラミジア抗体				
	検査件数	STS法 陽性	TP抗原法 陽性	検査件数	陽性件数	内訳		
						IgA 抗体陽性	IgAIgG 抗体陽性	IgG 抗体陽性
男	99	1	1	116	17	3	7	7
女	60	0	0	69	23	1	9	13

表4 都内性感染症病原体定点医療機関から送付された検体の細菌検査成績

2013年4月分

東京都健康安全研究センター

検査項目		検査数	検出数	検査材料	臨床診断名
クラミジア	トラコマチス	遺伝子	28	10	陰部尿道頸管さつ過物/分泌物、尿 尿道炎、クラミジア膺炎、性器クラミジア症、淋菌性尿道炎、膺カンジダ症 トリコモナス膺炎
ナイセリア	淋菌	遺伝子	28	6	陰部尿道頸管さつ過物/分泌物、尿 尿道炎、細菌性膺炎、膺カンジダ症、性器クラミジア症、淋菌性尿道炎、コンジローマ疑い トリコモナス膺炎
		培養	28	2	陰部尿道頸管さつ過物/分泌物、尿

表5 HIV検査数および陽性数

2013年4月分

東京都健康安全研究センター

区分	男性		女性		性別不明		合計	
	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数
東京都南新宿検査・相談室	528	10	226	0	0	0	754	10
特別区保健所	144	3	95	0	0	0	239	3
確認検査依頼	2	1	0	0	0	0	2	1
合計(2013年 4月分)	674	14	321	0	0	0	995	14
累計(2013年 1月～)	2644	38	1239	1	1	0	3884	39

区及び島しょ保健所

	男	女	不明
検査者数	244	127	0
陽性者数	1	0	0

表6 東京都におけるヒト由来ウイルス検出状況

2013年4月分

東京都健康安全研究センター

ウイルス/型	検出数	検査材料	臨床診断名	
インフルエンザ	AH3亜型	10	咽頭拭い液、鼻腔拭い液、鼻汁	インフルエンザ、咽頭結膜熱
	B型	15	咽頭拭い液、鼻腔拭い液、鼻汁	インフルエンザ、肺炎
アデノ	2型	5	咽頭拭い液	急性咽頭炎、気管支炎、急性扁桃腺炎
	4型	1	咽頭拭い液	咽頭結膜熱
	56型	2	結膜拭い液	流行性角結膜炎
	型別不明	5	咽頭拭い液、鼻汁、結膜拭い液	流行性角結膜炎、咽頭結膜熱、インフルエンザ
コクサッキー	A群6型	2	咽頭拭い液	不明発疹症
	B群5型	1	咽頭拭い液	不明発疹症
エンテロ	型別不明	3	咽頭拭い液、鼻汁	インフルエンザ、ヘルパンギーナ
ライノ		18	咽頭結膜熱	気管支炎、咽頭炎、突発性発疹
パレコ		1	鼻汁	気管支炎、結膜炎
単純ヘルペス	1型	4	陰部尿道頸管擦過物/分泌物、咽頭拭い液	性器/陰茎ヘルペス、口内炎
	2型	1	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	性器ヘルペス疑い
サイトメガロ		5	咽頭拭い液	川崎病、髄膜炎、不明発疹症
EB		4	咽頭拭い液	急性扁桃腺炎、流行性耳下腺炎
水痘帯状疱疹		6	咽頭拭い液、髄液	水痘、無菌性髄膜炎
ヒトヘルペス	6型	15	咽頭拭い液	突発性発疹、不明熱、不明発疹症、水痘
	7型	3	咽頭拭い液	突発性発疹、不明熱、
風しん		20	咽頭拭い液、尿	麻しん、不明発疹症、風疹
ムンプス		2	咽頭拭い液	流行性耳下腺炎
メタニューモ		16	咽頭拭い液、鼻汁	肺炎、咽頭炎、気管支炎、咽頭結膜熱
ノロ	G1型	1	糞便	感染性胃腸炎
サポ		1	糞便	ロタウイルス感染症
ロタ	A群	6	糞便、咽頭拭い液	ロタウイルス感染症、感染性胃腸炎
ヒトパピローマ	6型	3	コンジローマ患部生検/陰部尿道頸管擦過物/分泌	尖圭/陰茎コンジローマ/尿道炎
	11型	3	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	尖圭/陰茎コンジローマ
	31型	1	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	陰茎コンジローマ疑い
	70型	1	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	陰茎コンジローマ疑い

表7 東京都におけるウイルス性胃腸炎・食中毒疑い検査成績

2013年4月分

東京都健康安全研究センター

区分	検体数	検出病原体	陽性数
ふん便・吐物	427	ノロウイルス(G I)	12
		ノロウイルス(G II)	80
		ノロウイルス(G I, G II)	15
		サポウイルス	33
		ロタウイルス	2
食品・拭き取り	102	(検出せず)	0
合計	529	陽性数合計	142

表8 ヒト由来抗酸菌検出状況

区及び島しょ保健所

	管理健診	家族健診	接触者健診	その他	計
検査件数	2	0	0	9	11
陽性件数	0	0	0	1	1
結核菌	0	0	0	0	0
非結核性抗酸菌	0	0	0	0	0



